

平成29年度 第1回健康づくり支援部会 議事録

日 時：平成29年8月30日（水）

第2回高齢者支援部会・健康づくり支援部会合同部会終了後

20時10分～21時10分

場 所：帯広市役所10階 第6会議室

会議次第

1. 開会
2. 会議
 - (1) 前回会議の議事録（案）の確認
 - (2) 第二期けんこう帯広21中間評価報告書について
 - (3) その他
3. 閉会

出席委員： 阿部厚憲委員、吉村典子委員、金須俊雄委員、有岡秀専門委員、
角谷巍啓専門委員、高橋きみ子専門委員

欠席委員： 山本勝弘委員、高橋セツ子専門委員

事務局： 鳥本健康推進課長、野原健康推進課長補佐

○事務局

平成29年度第1回健康づくり支援部会を始めさせていただきます。

本日の委員の出席は、健康づくり支援部会委員8名中、6名のご出席をいただいております、出席人数が委員の過半数を超えていますことから、本日の部会は成立しております。

それではこれよりの議事進行につきまして、阿部部会長によりしくお願いいたします。

○部会長

では、会議に入らせていただきます。

前回の議事録の確認についてですが、内容について指摘をいただければと思います。

○委員

（特になし）

○部会長

特になければこれで承認します。

続きまして、第二期けんこう帯広21中間評価報告書について議題といたします。

事務局から報告をお願いします。

○事務局

それでは、中間評価について簡単にご説明させていただきます。

報告書の1ページ目、第二期けんこう帯広21は平成34年度を最終年度とする10年間のうち、中間となる現時点での進捗状況を確認して重点的に取組む課題を整理し、計画後半の取組に反映させることを目的とするものであります。

今回の中間評価の方法ですが、計画策定した際に設定した評価指標について、策定時の値と直近の値を比較して4段階に区分しました。計画策定時に設定した取組内容については、実施できているか確認を行っています。その評価は、各種関係団体や市役所内関係課のメンバーで構成されるワーキンググループで検討を行いました。

主な結果について報告させていただきます。まず、評価結果の指標の評価については、7領域の38の項目について“改善している”“変わらない”“悪化している”“評価困難”の4つに区分しました。結果が、下の表のとおりとなっています。

結果としては、改善している項目が38項目中18項目、変わらない評価が5項目、悪化しているが11項目となっています。また、評価困難が4項目となっています。具体的には、改善している項目のうち、自殺死亡率など4つの項目については、34年度の目標に到達しているものもあり、これらについては目標値の再設定を含めて検討を進めていきたいと考えています。

また、悪化しているのは11項目と約3割ありました。ここをさらに詳しく見ると、重点課題である糖尿病に3項目、また4つに分かれているライフステージの青年・壮年・中年期に7項目という偏りがありました。この改善に向けて、今後検討をしていきたいと考えています。

加えて、評価困難の4項目については、策定時に設定したデータが現時点で取得できない状況であるため、今後データの取り方や指標の設定の仕方の再検討が必要になると考えています。

次の2ページにいきまして、取組の評価です。先ほどの重点課題3項目とライフステージ4領域について、本人や家族の取組、地域関係機関の取組、市の取組と3つの取組が設定されています。本人家族の取組は市民アンケートで調査したところですが、地域関係機関の32項目と市の取組の48項目の合計80項目については、先ほどのワーキンググループで確認を行ったところですが、結果については、下の表になっています。

実施しているが66項目で82.5%。実施していないが3項目のみでした。どちらとも言えないのが11項目でした。市の取組は約9割が実施されていて、地域関係機関についてはどちらともいえないが3割にのぼりました。この理由としては、職域、職場の取組については、その場所によって違いがあるため、ワーキングメンバーだけで取組を行っているのかどうかを判断するのはなかなか難しいと意見があったために、どちらともいえないに振り分けています。また、実施していない項目につきましては、今後、改善のための検討を行う必要があると考えています。

今後の予定ですが、この結果をもとにして、先ほどの課題のある指標の再検討や実施していない取組内容の具体的な検討について、この部会で意見をいただきたいと考えています。ほかにもワーキンググループ会議を再度開きまして検討もしていきたいです。また、関係団体、様々な職種団体や市民団体と意見交換を行い、具体的な対策の検討の上、計画の見直しやもしくは改訂版を作成するといった検討を進めていく予定となっています。

11月に部会を開き、素案や改訂版案などを提示させていただきたいと思っています。本日は、皆様方からの色々な意見、具体的な意見でも結構なのでいただきたいので、よろしくお願

ます。私からは以上です。

○部会長

今の事務局からの説明で、ご意見がありますでしょうか。

○委員

今回の部分でどこが課題だと考えていますか。

○事務局

全てのことについて細かく説明することはできませんが、例えば、重点項目の一つの糖尿病では評価 C が 3 つあります。ここについては課題になると考えています。

そのほかの C 評価としては、11 ページの循環器疾患、虚血性心疾患の標準化死亡比の維持ですとか、脂質異常症の増加の抑制ですとか、12 ページ、適正体重を維持している人の増加で 20～60 代男性の肥満が C 評価ですとか、20 代女性やせが C 評価となっています。13 ページ、身体活動では、運動を定期的に行っている方につきましても、計画策定時よりも割合が減っている指標となっています。

加えて 15 ページの、歩いて 5 分以内で車を使う方の割合が逆に増加している状況があります。飲酒につきましても、多量の飲酒をしている人の割合が男性では増加しているなどの様々な C 評価がありますので、いろいろなご意見がいただければと思っています。いろいろな関係機関からも意見をいただきますので、それらの意見と合わせて今後の計画策定に生かしていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

○部会長

いかがでしょうか、皆さん意見はありますか。

この会議をしているからには、計画内容を実現させていかなければならないと思います。そのためには実現可能な方策を立案して運用をしていただきたいと思います。だからと言って広げすぎるとお金がなかったり、人がいなかったりしますがどうでしょう。

○委員

確認だったのですが、この取組の評価の実施状況の見方は、18 ページからの実施状況が表わされているのですか。

○事務局

18 ページ以降で、ハイフンがどちらともいえない、バツが実施していない、マルが実施しているということです。

○委員

この実施していないところについて意見交換をしていくということなのですね。

○事務局

もちろん、実施していることについても意見をいただいても構わないのですが、特にやらなければならないことは、実施していないところについてどうしていくか。この点を考えていかなければならないです。

○委員

14 ページの指標 25 に、歩いて 5 分以内の距離でも自家用車を利用するとありますが、簡単な用事の時は使っていないのではと私は思うのですがね。はっきり見ているわけではないですが、私だったらそうなのですよ。

郵便を出しに行くときは歩いて行きますが、重い荷物を持って帰ってこなければならないときは、車を利用するとか、そういうことがあるので。買い物でスーパーに行くときはどうしても車が必要であるから増えているのではないのかな。2, 300 メートル離れた知人の家を訪ねる時は結構歩いているのかなと思っていました。

○事務局

実際そのようなこともあるかと思いますが、アンケート調査では、実際に歩いて 5 分以内でも 26.4%の方が使うと回答しているので、ちょっとした用事であれば歩くように進めていかなければならないと考えています。

○部会長

まず、これは北海道全体がそうなのでしょうが、一人 1 台車を持っている時代になっていますので、自由に使える状況ですよ。5 分と区切っていますが、帯広は 5 分で自分の用事を済ませるような良い住環境の所はそんなに多くはないと思います。そうすると、ちょっとした用事でもついつい車を使ってしまう。

それ以上に、帯広に住んで 10 年以上になるが、帯広は公共交通機関が非常に使いづらいです。先日バスを利用しましたが、バス停に着くまで 15 分も 20 分もかかったのです。もっともっと使い勝手がよい交通機関があれば、近所の買い物も歩いて行けるのではないのでしょうか。

これは、健康づくりの方ではないですよ。社会インフラのことになってしましますが。しかし、そういうことも考えていかなければならないと思います。

私ばかり話してしましますが、自分が専門としているがんの領域です。これを見ると検診の受診率が非常に低いですね。なぜなのだろうと少し考えてみたのですが、まず、自分の健康に対して非常に意識の高い人は毎年検診を受けるし、健康に無頓着だったり、自信過剰な場合は、ほかの人の意見を聞かない。60 歳になっても人生で一度も胃がん検診を受けたことがないという人がたくさんいるのです。このような状況では検診の受診率は上がらないなと思います。

提供側の医療の方も、医師はどこにも病気がない人に対して、予防についてはあまり医学教育では学んできていない。胃カメラも健康被害が少なからずあるため、症状がない人に対して積極的に何でもかんでも検査しましょうというわけにはいかない現実があります。医療機関にも健康被害があった時の公的な対応がないと進めていけないのではないかなと思います。

○委員

栄養士会でも介護予防に携わっていますが、私たちも講座をしていくにあたって意識を変えていかなければならないと意見が出ています。

部会長が話していたように、いきなり検診ではなく、家庭で自分たちが出来る医療的な健康管理、血圧を測るとか体重測定を毎日するとか、あとは体温を測ること。このようなことをやってみましょうとお話するのですね。そこから介護予防につながっていると話をするのですけど。

まず体重測定。聴いてみると10人いたら1~2人しか気にしていない。あまり体重は減らないから気にしていないという話を聞くのです。そこら辺の意識から変えていかないと検診までは遠いのかなと感じています。

介護予防の中で、食べることばかりではなく家庭でできる医療管理を意識していて、生活を改善できるような話をしなければならない役割があると思っています。

○部会長

他の委員はどうですか。

○委員

がんの検診の仕方というのは、これ以上たとえば、血液一滴でわかるようなものが導入されてくると、気軽に受診できると思っているのですが。

○部会長

胃カメラ検診で苦しかったり、乳がん検診で痛い思いをすることもありますね。

検診方法も変化しているが、新しい技術は費用が数十万します。しかし、もっと簡易な検査がないと、これ以上広がっていくのは難しいかもしれないですね。

○委員

他にも、胃がんであれば、ステージ1から4までいろいろあるが、治療費はどのくらいかかってくるのでしょうか。

○部会長

ステージ3くらいが、手術もするし、抗がん剤も使うので、一番医療費がかかるかもしれない。逆に、ステージ4の人は手術しないこともあり、医療費は高額にならないでしょう。ステージ1、2の早期であれば、手術で終わることが多いので医療費は一定額になることが多いですね。

最近胃がんが減っていると医師同士で話しています。反対に、大腸がんは増えてきています。ただ、大腸がんによく効く抗がん剤があるので、救命率は上がっていますね。

○委員

がんは早期発見すると医療費は少なくなるということは確実なのですね。

○部会長

それはその通りですね。

○委員

P19 のがんのところで、市は子宮頸がんワクチンの接種を勧めますと書いてあるが、国の通知に従い、積極的に勧奨していないのと書かれているのはなぜですか。

○事務局

子宮頸がんワクチンに関しては、策定時は積極的に推進しますということでしたが、途中で、国の方から、副作用の発生についてワクチン接種との因果関係がはっきりしていないという理由から、一旦積極的な勧奨を控える通知が来ています。それ以降、積極的には進めないという方向性のまま来ています。私達も、結論が出るまでは積極的勧奨をしないという方針です。

○部会長

予防のために良いと考えて行われていても 100%安全なものは存在しないのです。インフルエンザの予防接種でさえ健康被害が出る人はいるので、危険性を 0 にできない以上は、被害を受けた方の救済制度をきちんと作っていかないと勧められない。

○委員

副作用の原因は分かっているのですか。

○部会長

副作用の因果関係が立証できていないですね。副作用が出た方の数が少なく、被害にあった方の報道がショッキングにされてもいて、なかなか調査が進んでいないという状況です。

○部会長

自殺死亡率が下がったことは、非常にいい話ですよ。この結果に至った一番の方策はなんでしょう。

○事務局

自殺死亡率は策定時より下がっているが、全国の自殺死亡率は 17%台、全道は 18.7%なので、帯広市の 25.5 はまだまだ高い数字です。自殺死亡率は下がってはいるのですが、全国も全道も右肩下がりで減っているのに対し、帯広市はその年によって上がったり下がったりと、変動が激しいのも特徴です。全国の自殺死亡率に並ぶくらいに下げる対策が必要と考えています。

この部分は、実際に目標に向かっていくものについて A 評価としました。最終評価がどうなるかわからないが、現時点はこの評価にさせてもらっています。

○委員

運動習慣ですけれども、C 評価だが、どんな運動の種目をされているかわからないですか。

○事務局

どのようなという聞き方ではないです。習慣的になんらかのという質問項目として作っている。それで、青年・壮年・中年期の方のアンケート結果が悪かったということです。どちらかという高齢期の方はよくても、働き盛りの方の運動がなかなか習慣化していかないです。仕事が忙しいというのはあると思うが、それでも時間を見つけて運動するという習慣を身につける策があればいいなと考えています。

○委員

特定保健指導をしています。ある時6か月間の相談の中、体重が下がった人がいました。何か環境が変わったことがありますかと聞いてみると、ラジオ体操をする職場に変わったと話していました。それだけでこんなに効果があるのかということがありましたね。

○事務局

補足させていただきます。運動に関する質問項目は、日ごろから健康の維持増進のために意識的に身体活動、あるいは運動をしていますかという設問項目での答えが、壮年期で継続的に週2回以上運動をしている人が少なかったという結果でした。

先ほどどのような運動をしているかという質問があったと思いますが、単純集計で、冬季以外どんな身体活動をしているかという質問をしていて、1位がウォーキングです。2位は軽い体操、ストレッチで、3位が庭いじり。そして次に筋力トレーニングですとか、自転車・サイクリング、階段昇降、ジョギングなどが続いています。

○部会長

運動するところも少ないかもしれませんが、都会で公共交通機関を使っている人は、例えば駅まで歩くとか、もっとすごい人は一駅歩くとかになるとそれも運動になると思うのですね。帯広では車で移動するので、歩く必要がなくなっている。どうしても雪で閉ざされてしまうこともありますしね。雪で遊ぶことやスキーで遊ぶなどもあまりしなくなっていました。

○委員

一つ質問ですが、ヘルシーメニュー表示店を紹介しているというのは、具体的にどの程度やっているのか教えて欲しい。合わせて、運動やスポーツを身近にやるというのは具体的にどうということなのか。自分も以前から意見しているが、皆さん、チャレンジデーって聞いたことがありますか。芽室や本別で行っていて、同等の人口の市町村がある特定の日にどのくらいの方がスポーツをしているかを年1回競い合う日がある。そういうことを帯広市でも一度やってみたら、どのくらいの市民が運動をしているのかわかるのではないかとっています。

○事務局

一つ目のヘルシー表示のお店は、道の事業で帯広保健所が発信しています。年々増えてはいるが、周知がまだまだ足りないという課題があるようです。先日、市も一緒に周知していきましようということで、話は進んでいるところです。市のホームページからも保健所と連携して

周知していきたいと考えています。チャレンジデーについては、芽室町も PR を積極的にしていることは把握している。いまお話されたように庁内の連携の中で検討していくように考えていきたいと思っている。

○委員

ぜひ検討をお願いしたいです。アンケート調査ではどのくらいの市民が運動に取り組んでいるのかはわかりません。

○部会長

特別な運動をしている人が多いとか、少ないとかでなく、通勤の時にちょっと歩くとかでないかと思います。

○委員

チャレンジデーの中でも、散歩から始まって、ラジオ体操やスポーツなど、どのようなことが行われているかが分かったほうが、状況を掴めていいのではないかと思っていたので。

○事務局

今回行ったアンケート結果ですが、6歳から85歳の男女2500人を無作為抽出して、年代ごとに区切ってアンケートを送付した結果、約4割回答をいただいています。この結果でもそれなりの数字の推計は出来るのではないかと考えています。

運動については、冬季間外に出られないという十勝の特徴があるので、オビロビや家庭で出来る運動を出前講座で周知しているなど、数々の取組みを行っている中で、高齢者や介護予防に取り入れてもいます。高齢期は運動習慣にはなっているが、やはり、壮年期、働き盛りの年代で、職場によって取組がまちまちになっているので、なかなか現状を把握しづらい課題ではあります。

その中で、好事例、成功事例などを提供するようなかたちで、職域でも活動を広げて行く活動は続けていきたいと思っています。もし名案があればぜひいろいろな意見をいただきたいです。

○部会長

十勝、帯広で、家でご飯を食べる人と外食やコンビニ等で済ませてしまう人の割合というのわかりますか。

○委員

調査したことはないが、私の職場は特別養護老人ホームで、若い20代から、世帯を持つ30代の職員がいる。世帯を持っている人は家庭食です。若い人で夜勤などある不規則な生活では、コンビニで買ったものやインスタント食が多いです。外食はあっても、比率は少ないと思うのですよね。うちは、職員に昼食は提供しています。昼だけでも栄養が取れるのでそのようなところが多いといいのですが。

○委員

それよりも、今子どもたちにもっと深刻なことがあって、貧困と関係があるのか食べることができない。給食だけが頼りのお子さんかなりいます。保育園でも朝は食パン1枚だけということもあるかなと思うのです。ただきちんと調査がされているかはわからない。

○委員

農政部で食育サポーター事業をしていますが、そこでPTAのお母さんたちは、まったく朝食を食べないお子さんがいることを仕方ないと思っはいいないのです。朝食をどのように工夫したらよいか、どんなものだったら朝簡単に作れるかなど、依頼を受けて講演をしたりもするのです。それを実践するかはわからないが、依頼があるだけほったらかしではないという希望はあります。

○委員

大学生の家庭で、家には包丁がありませんというところがある。どうやって生活してきたかと思ったりしますが、買ってきたものがテーブルにあって、これまで生活していたといったこともある。

○委員

これらの問題は家庭ですよ。

○委員

そうですね。基本的に保育所は主食を持参しますが、私立の保育園の中では別に料金を徴収して、ご飯を炊いているところもある。お母さんが全くご飯の準備をしない家庭をどうしようかという話のときに、年長ぐらいになれば自分で米を研いで、ご飯を炊くということが、練習すればできるようになるので、そういう教育をしてかなければいけないという話が出てきています。もちろん、数としては少ないですが。

○委員

家の近所に孫が住んでいるが、夏休みなど長い休みで、家の中のお手伝いをすることを自由研究に持っていったらどうだろうと話しています。学校の中でも、長い休みに家の中で何をしたかを聞くようにしてもいいのではないかと思います。

○委員

学童では、長期間の休みの際には、お昼ごはんは自分達で作って食べようというところもありますよね。子どもの頃から、自分で作って食べるというような教育訓練をやる必要があるのかなと思います。

○委員

帯広市内の子ども食堂の実態の把握はされていますか。

○事務局

“WEW とかち” という団体が定期的に行っているという話を聞いています。

○委員

回数は1か月に1回くらいでしょうか。

基本的には、生活の仕方みたいなものについて、みんなが考えていくことが必要なのではないかと感じます。

○委員

どこかで早寝、早起き、朝ごはんを条例化したところはなかったでしょうか。帯広ではこれはどこの課が担当になるのでしょうか。案外、健康や食育の基本につながると思いました。

○部会長

大体よろしいでしょうか。今後、できれば意見をまとめていきたいのですが。次回はいつでしょうか。

○事務局

次回は11月で、素案を提案する予定になっています。これからは意見交換会を進めていきたいと思っています。

○部会長

ほかになければ、その他として事務局をお願いします。

○事務局

前回の部会の際、ふれあい銭湯事業の実績について数字を提供してほしいと要望がありましたので、報告します。帯広浴場組合に加盟している9の浴場で、金曜日と土曜日に子どもに対して、月3回以上で年間36回以上事業を行っていただいています。加盟していない3つの浴場については任意の日において月3回以上で年間36回以上事業を行っていただいています。昨年平成28年度で全12の浴場で15歳以下のふれあい銭湯事業の実績が、延べ人数で合計15,343名でした。平成24年度より平均15,000人前後、多い年では17,000人、少ない年で13,000人となっています。

今年から行っている高齢者の月1回の事業、高齢者が200円で入浴できるのですが、これにつきましては、半年過ぎているので、実績がまとまれば報告することは可能です。

○部会長

他になければこれで、第1回の健康づくり支援部会を終了させていただきます。

○事務局

次回ですが、11月を予定していますので、よろしくお願いいたします。